

雪の音で

Vol.148

令和5年6月15日発行



巻頭言	「富山のウェルビーイング」を支える社会資本整備	富山県 土木部長 市井昌彦	1
特集	新潟中央環状道路の部分開通 (国道8号～国道116号区間) について	新潟市 土木部 道路計画課	2
寄稿文	市民13,000人でつくる「奥能登国際芸術祭」	珠洲市 芸術文化創造室	6
ちょっと気になる コーナー	世界遺産と観光地の宝庫「バリ島」	中越交通株式会社 常務取締役 山崎康裕	8
お知らせ	令和5年度(第41回) 北陸支部定時総会	総務部会 総務委員会	10
お知らせ	令和4年度 「BIM/CIM官民合同講習会」報告	技術部会 統括技術委員会	12
お知らせ	令和5年度 河川研修会 「農地と砂防分野から考える流域治水」	技術部会 河川・砂防委員会	14
	令和4年度 支部活動報告	事務局	16
	会員名簿 役員・委員会名簿	事務局	19
	編集後記	太田博昭	

[題字]

元北陸地方建設局長
廣瀬利雄 揮毫

[表紙・裏表紙写真]

タイトル 角田山からの眺望
撮影地 新潟市西蒲区

巻 頭 言

「富山のウェルビーイング」を支える 社会資本整備

富山県 土木部長
市井 昌彦



貴協会の皆様には、日頃より本県の土木行政の推進に一方ならぬご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、現在、少子高齢化・人口減少などの課題への対応や、DX・GX、カーボンニュートラルなどの社会全体の取組みが拡大しています。また、昨今のエネルギー価格・物価の高騰が社会経済に大きな影響を与えている一方で、県民の暮らしと事業活動に大きな影響を与え続けてきた新型コロナウイルス感染症は、その位置づけが見直され、新たなフェーズに向けた動きが着実に進むなど、社会構造も大きく変わろうとしています。

こうした中、本県では、県民一人ひとりが、暮らしのなかの幸せを実感し、誇りと愛着を持つことができるよう、県の成長戦略を策定し、「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～」の実現を目指しています。

その中で、社会資本については、県民の皆様の「幸せの基盤」である安全・安心な暮らしを支え、本県の発展の礎となる重要な役割を担っています。

県としては、神通川などの河川改修や利賀ダムの建設、立山砂防をはじめとした治水・海岸・土砂災害対策を進め、東海北陸自動車道、富山高山連絡道路や国道8号入善黒部バイパス、県道高岡環状線など物流と生活を支える幹線道路や通学路、港湾施設などの充実を図るとともに、老朽化対策を講じ、インフラ施設の機能維持に努めてまいります。

貴協会の皆様には、公共工事の品質確保を図る上で

重要な役割を果たされるとともに、災害時の緊急対応にも従事していただいております、あらためて深く感謝申し上げます。

このような状況のもと、本県の実情に精通し、県内を拠点とする地域コンサルタントの皆様が将来にわたって地域で活躍していただくためには、担い手の確保・育成や経営基盤の強化が極めて重要であると考えています。

このため県では安定的な公共事業予算の確保や発注の平準化、適切な履行期間の確保に努め、DXの一層の推進など、働き方改革や生産性向上につながる取り組みを進めています。さらに今年度は、建設産業の魅力を広くPRするためのイベントの開催やウェブサイトの開設を新たに実施することとしております。

今後とも、地域に貢献し、経営力に優れた県内建設関係企業が将来にわたり健全な経営が続けられるよう、積極的に取り組んでまいります。

近年、災害の激甚化・頻発化やインフラ施設の老朽化など公共事業を取り巻く環境は刻々と変化しておりますが、こうした課題に的確に対応しながら、これまで先人の努力により築き上げられた富山のウェルビーイングを支える社会資本の整備や維持に努め、次世代に引き継げるよう、貴協会の皆様とともに取り組んでまいります。

皆様には、今後とも、ご支援とご協力をお願いいたしますとともに、貴協会の限らないご発展と会員の皆様方のますますのご活躍、ご健勝を心からお祈り申し上げます。

新潟中央環状道路の部分開通 (国道8号～国道116号区間) について



新潟市 土木部 道路計画課

1. はじめに

新潟中央環状道路は、北区の国際拠点港湾新潟港（東港区）から、江南区、南区、西区を経由し、西蒲区の角田浜へ至る、延長45kmの緊急輸送道路であり、各地域間の交流・連携の軸となるとともに、「防災・救援首都」としてのまちづくりや、本市の拠点性を高める重要な路線として、本市が主体となって整備を進めています。

このうち、国道 8 号～国道 116 号を結ぶ約 9km の区間が、令和 5 年 3 月 25 日に開通しました。

併せて、接続する黒埼スマートインターチェンジがリニューアルし、上下線ともに24時間の利用とETC車載器を搭載した全車両の通行が可能となりました。



図-1 新潟中央環状道路概要図

2. 開通区間の概要

路 線 名:主要地方道 新潟中央環状線

開通区間：新潟市南区上塩俵～西区明田

事業期間：平成22年度～令和4年度

事業費：約192億円

事業延長：約9km

(うち、現道区間約3km、整備延長約5.8km)

計画幅員:10.0m (暫定2車線整備)

道路区分：第3種第2級

主要構造物：中ノ口川大橋 $L=128.0\text{m}$

3径間連続非合成鈑桁橋

くろさき茶豆大橋 L=245.0m

5徑間連續非合成鋼箱桁+鈹桁橋

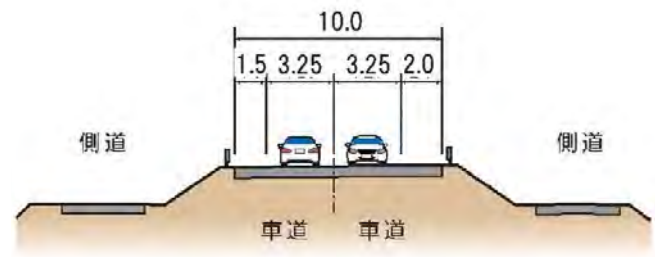


図-2 標準横断面図



図-3 今回の開通区間

3. 整備の効果

(1) 企業進出や雇用創出を促進

道路の整備と黒埼スマートインターチェンジのリニューアルにより、周辺の工業団地※から関東・関西方面へ行く際の最寄りインターチェンジまでの所要時間が短縮し、企業活動の効率化が期待されます。

※白根北部工業団地 …… 約18分短縮
 升岡工業団地 …… 約12分短縮



写真-1 黒埼スマートインターチェンジ(上り)



図-4 最寄りインターチェンジまでの経路と時間

(2) 近隣観光施設へのアクセス向上

当該区間の近隣には西蒲区の「岩室温泉」や「カーブドッチ・ワイナリー」、南区の「アグリパーク」や「白根グレープガーデン」など、県内有数の観光資源が点在しており、道路の整備と黒埼スマートインターチェンジのリニューアルによって、市内外からの来訪者の増加が期待されます。



図-5 周辺の観光資源

(3) 地域間の往来が安全・快適に

中ノ口川大橋に隣接する「根岸橋」「松橋橋」は、建設後50年以上経過しており、道路幅員は狭く、幹線道路との接続がなかったことから、兩岸地域の往来に支障をきたしていました。

中ノ口川大橋の開通により、新たに歩道も設置するなど、兩岸地域の往来が安全で快適になるとともに、生活環境の向上も期待されます。



写真-2 中ノ口川大橋と既設橋梁

4. 工事の概要と特色

(1) たった1晩で橋げたを架設！

くろさき茶豆大橋は、北陸自動車道を横断する延長245 mの橋梁で、新潟市内では高速道路の上を一般道として唯一通過する橋となります。

このうち、北陸自動車道を跨ぐ中央径間（延長約72 m）の橋げた架設工事は、長期の交通規制を避けるため、事前に組み立てた橋げたを、専用の装置で送り出す「送り出し工法」によって、たった一晩で架設することができました。



写真-3 くろさき茶豆大橋



写真-4 橋げた架設の様子

(2) 地域に愛される橋を目指して

「くろさき茶豆大橋」の名称は、全国から607件の応募をいただき、地元代表者等で構成する選定委員会にて審査して決定しました。新潟市の名産品「くろさき茶豆」を名前にすることで、様々な地図に記載され、地域への愛着や誇りが増すとともに、自慢の枝豆を全国に広くアピールできる点が評価されました。

また、橋名板の文字は、地域の小学校である黒埼南小学校の生徒が力強く書いてくれた書道をもとに作成し、橋に設置しています。このような取り組みにより、地域に末永く愛される橋となるよう整備を進めました。



写真-5 橋名板と名産「くろさき茶豆」

(3) 私たちもICTる（あいしてる）

本市では、建設現場における生産性を向上させ、魅力ある建設現場を目指して、これからの土木工事の先駆けとなるi-construction（ICT）に取り組んでいます。

新潟中央環状道路では、平成29年度に明田工区で本市初導入以降、全線に渡って盛土や舗装工事で継続的に活用してきました。

橋台工事では、鉄筋の設計図を3次元化してタブレット型端末上に可視化することで、現場での確認を容易とし、経験年数が少ない作業員でも、確実に施工できるよう、独自の工夫も行いました。

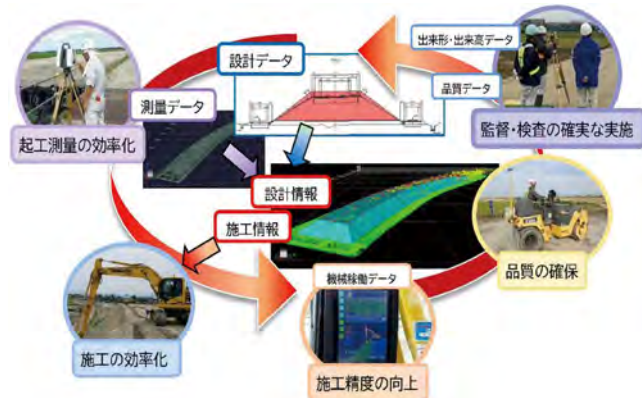


写真-6 ICTへの取り組み

5. 開通記念式典

令和5年3月25日の開通当日、新潟市西区の「みどり森の運動公園」にて、地元選出の国会議員をはじめ、県・市議会議員、市長列席のもと、地域の代表者や一般参加者を含め、総勢約270名の方々に参加いただき、開通記念式典が執り行われました。

開式に先立ち、アトラクションとして、地元の郷土芸能保存会による新潟市無形民俗文化財「木場の棒踊り」や、新潟市西区出身で現在西区かがやき大使に就任されている元タカラジェンヌの越乃リュウさんによる歌謡が披露され、皆さんの心に残るイベントになりました。



写真-7 木場の棒踊り



写真-8 越乃リュウさんによる歌謡



写真-9 佐藤信秋参議院議員による祝辞



写真-10 テープカット・くす玉開披



写真-11 式典後のくろさき茶豆大橋見学

6. おわりに

事業にご理解をいただき大切な用地をご提供いただいた地権者の皆様はもとより、事業化にあたり熱心な要望活動をしていただいた白根黒埼地域整備促進協議会の皆様、多大なご支援をいただきました国土交通省、新潟県、東日本高速道路株式会社の皆様、高い技術力により無事完工を成し遂げた施工業者の方々、その他多くの関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

新潟中央環状道路は、主要な幹線道路を結び、道路ネットワークが形成されて、各区とつながることにより、初めて大きな効果が発揮されます。現在未供用の区間につきましても、引き続き、早期供用に向けて整備を進めていきます。

市民13,000人でつくる 「奥能登国際芸術祭」

珠洲市 芸術文化創造室

1. はじめに

珠洲市は、日本海に突き出た能登半島の最先端に位置し、かつては海上交通の要衝として農業や水産業を中心に栄え、珪藻土産業や珠洲焼、能登瓦、揚げ浜式塩田など地域の特性を生かした独自の産業も発達していました。



陸上交通の発達や燃料革命に伴い、一次産業を中心とした地場産業の衰退とともに、昭和29年の市制施行時の人口約38,000人から大きく減少し、現在では約13,000人と当時の35%程度の人口規模となっています。

高齢化率は50%を超え、人口減少対策とともに若者定着対策が喫緊の課題となっています。

移住・定住、地域内定着を進めるためには、珠洲市に魅力を感じてもらうこと、地域への愛着や誇りを持っていただけることが重要であり、珠洲市の魅力を高めるための取り組みの1つとして、「奥能登国際芸術祭」を開催しています。

2. 「奥能登国際芸術祭」の特徴

2000年から新潟県越後妻有地区で開催されている「大地の芸術祭」や瀬戸内海で2010年から開催されている「瀬戸内国際芸術祭」を成功に導いた北川フラム氏を総合ディレクターにお迎えし、2017年に「奥能登国際芸術祭2017」を開催しました。

「奥能登国際芸術祭」は、これまで都市圏で開催されてきた、アーティストから作品をお借りし、施設内で公開する展覧会形式ではなく、



奥能登国際芸術祭2023
のロゴマーク

- ① 海岸、森林、神社の境内、空き家や廃校など、市内全域を舞台に
- ② アーティストが珠洲という場所に向き合い、文化や歴史を感じながら、その魅力や特徴を表現した珠洲市に根差した作品を
- ③ アーティストが珠洲市に滞在し、地域住民にコンセプトを伝え、地域住民と協働で創りあげる

地域一体型の芸術祭です。

毎日のようにどこかの集落で祭りが行われ、珠洲市が一番活気づく9月から10月にかけて会期を設定しており、来場者は、昼はアート作品を道しるべに市内



『記憶への回廊』
山本基〈日本〉



『Something Else is Possible/なにか他にできる』
トビアス・レーベルガー〈ドイツ〉



『小さい忘れもの美術館』
河口龍夫〈日本〉

を一周する「岬めぐり」を、夜は「キリコ祭り」を楽しんでいただけるのも、「奥能登国際芸術祭」の特徴の1つです。

知名度も低い「珠洲市」を会場に、手探りで開催した「奥能登国際芸術祭 2017」でしたが、50 日間で 71,000 人を超える方々にご来場いただきました。過疎高齢化の進む市内を、若い方が歩く姿を目にし、連日のように新聞やテレビで芸術祭が報道され、「ステキなところですね」と来場者に声をかけられることで、「珠洲市の良さを再認識、再発見した」と市民自身に変化が生まれました。

「飲食」「宿泊」「交通（移動）」という課題解決も含め第 2 回の準備を進めていた 2020 年、コロナが猛威を振るい、1 年延期を余儀なくされました。コロナ禍での芸術祭開催に向けて、医療機関とも協議を重ね、感染対策など 1 年かけて準備し迎えた 2021 年の「奥能登国際芸術祭 2020+」。開幕初日は、金沢市がまん延防止等重点措置区域となっており、芸術祭独自の感染防止対策規定に基づき、解除されるまでの 1 ヶ月間は屋外作品を中心とした一部公開とするなど、来場者の皆様にはご不満の残る形での開催となりました。

それでも、約 49,000 人の方々にご来場いただき、コロナで落ち込んでいた地域に、活気が戻りました。

3. 震災を乗り越え

コロナ禍もようやく出口が見えかけ、海外からの誘客も見込んで準備を進めていた矢先の 5 月 5 日に震度 6 強、震度 5 強の地震が発生し、道路や水道などインフラの被害に加え、多くの住宅が被災しました。

芸術祭の常設作品会場や新規作品会場として準備を進めていた建物も複数被災しました。

市民はもとより、事務局スタッフの心も沈み、芸術祭の開催時期について協議を重ねました。

「今は、芸術祭の開催など考えられないかもしれない。しかし、震災の復旧・復興が進んだ数か月後、何もない状態よりも、芸術祭を通して、地域間のつながりや来場者との交流が生まれた方が、心豊かで楽しい

のではないかと。芸術祭が市民の希望の光となるのではないかと」という結論に達しました。

まずは、被災者の生活再建を最優先に、復旧・復興に取り組むため、当初予定していた 9 月 2 日（土）の開幕を全体に 3 週間先送りし、9 月 23 日（土）から 11 月 12 日（日）までの 51 日間を会期として開催することとなりました。

第 3 回目となる今芸術祭は、14 の国と地域から 59 組のアーティストが参加し、約 50 作品を公開する予定です。

前回の芸術祭で誕生した、劇場型歴史民俗博物館「スズ・シアター・ミュージアム」の敷地内に、作品の 1 つとして、どこからでも美しい日本海を望める全面ガラス張りのレストラン（建築家の坂茂氏が設計）がオープンするなど、見どころ満載です。

市民 13,000 人が一丸となって準備を進め、皆様をお迎えいたします。ご来場の皆様との出会いや交流が、珠洲市の笑顔と元気につながります。ぜひ、今秋、珠洲市へお越しいただき、現代アートと奥能登の風土が響き合い、五感を揺さぶる時間と空間の体験をお楽しみください。

4. 終わりに

この度の地震で、これまで国や県、他の自治体やボランティアの方々のご協力、全国各地から支援物資や寄付金等、温かいご支援をいただいています。1 日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりますので、今後とも、ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



『スズカ』ひびのこづえ（日本）



真浦のキリコ祭り



レストラン完成イメージ

ちょっと
気になる
コーナー

Bali



世界遺産と観光地の宝庫「バリ島」

中越交通株式会社 常務取締役 山崎康裕

《バリ島の基礎知識》

バリ島はインドネシア共和国のバリ州にあり、州都はデンパサール市です。時差は日本の1時間遅れで、日本の正午の時にバリ島は午前11時。(首都ジャカルタ・ジョグジャカルタは日本の2時間遅れ)バリ島の気候は、熱帯性気候で、雨季(10月～3月)と乾季(4月～9月)に分かれます。平均気温は約27～28度です。雨季の時期は、雨も多いのですが、短時間に強い雨が降る、「スコール」です。

公用語は、インドネシア語ですが、バリ人同士の日常会話ではバリ語が話されています。ホテルやレストランでは英語が通じますし、日本語を話す人も多くいます。インドネシアの通貨単位は、「ルピア(Rp)」です。日本円の10,000円をルピアに両替すると1,123,596Rpとなり、大金を手に入れたと勘違いする位の紙幣が来ます。(2023/4/9時点)

バリ島の宗教も変わっていてインドネシアの国民の九割がイスラム教を信仰していますがバリ島ではイスラム教伝来以前のヒンドゥー教とバリ古来の土着信仰とが混ざり合った「バリ・ヒンドゥー教」を九割の人々が信仰して

おり、日常生活に深く関わっています。

宗教的タブーがいくつかあり、物の受け渡しや握手は必ず右手で行う、人の頭を触らない、寺院を訪れる時は肌を露出した服装を避ける、など様々なタブーがあります。食のタブーもあり、ヒンドゥー教徒は牛肉を、イスラム教徒は豚肉を食べませんし、アルコール類は口にしません。

インドネシア共和国の中でも少し変わった地域がバリ島です。

《バリ島の観光》

バリ島は、世界遺産と観光地の宝庫と言われるほど、多くの見どころがあります。

世界遺産では、スパックと言われる棚田に水を行き渡らせる灌漑(かんがい)施設が世界遺産に登録された田園風景が有名な「ジャティルウィ」、バリ島の寺院の中で最も美しいと言われる「タマンアユン寺院」、11世紀に造られた王族の墳墓でバリ島最大の岩窟遺跡でもある「グヌンカウィ」、聖なる水が湧出る寺院「ティルトアンプル」、この他にも、クリサン川周辺の村の棚田の中

【写真提供】 ガルーダ・オリエントホリデーズ・ジャパン株式会社



▲タナロット寺院



▲ジャティルウィ



▲タマンアユン寺院



▲グアンカウィ



▲ティルタエンブル (聖水)



▲バトゥール山とバトゥール湖



▲ウルワツ寺院



▲ケチャックダンス



▲ナシゴレンとミーゴレン

にある「イエ・プル遺跡」、「バトゥール湖」などが有名です。バリ島の隣島「ジャワ島のジョグジャカルタの世界遺産、ボロブドゥール遺跡」をまとめて観光する事も出来ます。ぜひ訪れてみてください。

世界遺産以外にも観光地は、多くあります。断崖絶壁の上に建つ、夕日の名所「ウルワツ寺院」ではバリ古典舞踊の中で最も有名な「ケチャックダンス」を鑑賞する事も出来ます。バリに訪れたなら観て頂きたい火を使ったパフォーマンスです。

他にもゴルフやクルージングも楽しめます。楽しみと言えば食事忘れてはなりません。インドネシア料理と言えば、チャーハンに似ている「ナシゴレン」や焼きそ

ばに似ている「ミーゴレン」が有名ですが、バリ島の郷土料理の豚の丸焼き「バビグリン」も一度は、召し上がってください。イスラム教では、豚肉を食べませんがバリ・ヒンドゥー教では、食べる事が出来ます。調味料としてインドネシア料理に欠かせない赤くて辛い「サンバル」があります。野菜や肉、魚を利用した料理は、日本人好みです。

《バリ島へのアクセス》

日本よりバリ島（デンパサール）への直行便を運行している航空会社は、ガルーダ・インドネシア航空1社です。飛行時間は、7時間20分ほどで到着できます。

成田空港から直行便が就航しております。ガルーダインドネシア航空の成田空港発は、火曜日・木曜日・土曜日に運航しており、バリ空港発は、火曜日・水曜日・土曜日となっております。（火曜日の日本発は、マナド経由となっておりますし、水曜日のバリ発は、マナド経由となっております。）

コロナ禍も新しいステージに入りました。3年以上も自由に旅行もできない状況でしたがいよいよ再開です。楽しいご旅行を!!

豚の丸焼き▶
「バビグリン」



令和5年度（第41回） 北陸支部定時総会

〈総務部会 総務委員会〉

1. 概要

去る令和5年4月20日（木）新潟グランドホテルにおいて、令和5年度（第41回）北陸支部定時総会が開催されました。総会は、新型コロナウイルス感染対策が緩和されつつある状況を踏まえ、4年ぶりに出席者を限定せずに通常開催として実施されました。

総会には、会員企業64社のうち、47社（欠席17社は委任状）・85名が出席し、寺本支部長より総会成立の宣言に続き、開催に際し挨拶がありました。

挨拶では、「令和5年度はコロナ禍により低迷した社会経済の再生に向け、持続可能で高い成長に向けて重要な年となる」ことを踏まえ、「建設コンサルタントは、安全安心な地域づくり、成長へ向けた基盤整備を行い、社会的使命を果たすこと。ニーズとシーズの融合により社会に適切に対応することが求められている。また、新技術の導入、生産性の向上、品質確保を強化することに加え、今後はDX等の推進がポイント」とし、「魅力、希望を持てる建設コンサルタント業の発展に向け加速していくために、積極的な活動に対して今後も協力をお願いしたい」と表明されました。



寺本支部長 挨拶

2. 議事概要

1. 支部長挨拶

2. 議事録署名人委嘱（署名人）

- ・パシフィックコンサルタンツ（株）

北陸支社長 林 勝義 様

- ・（株）建設環境研究所

新潟支店長 長谷川 修 様

3. 議案

- ・第1号 令和4年度 事業報告（案）
- ・第2号 令和4年度 収入支出決算報告（案）
監査報告
- ・第3号 役員の選任

4. 報告事項

- ・第1号 令和5年度 事業計画
- ・第2号 令和5年度 収入支出予算

議事では、令和4年度事業報告（案）及び収入支出決算報告（案）が原案通り承認されました。

また、任期満了に伴う役員の改選が行われ、平成23年度から6期・12年にわたり支部の円滑な運営ならびに発展に貢献いただいた寺本支部長が退任され、新支部長として、吉野清文新支部長（開発技建（株）代表取締役社長）を含む5名が新役員として就任することが承認されました。

その後、令和5年度事業計画及び収入支出予算が報告され承認されました。

吉野新支部長の就任挨拶として、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策など公共事業をめぐる環境は順調である。一方で新型コロナウイルス感染症対策やウクライナ情勢等に伴う物価高騰対策など財政支出が拡大する中、今後の国民の安全安心を守るためのインフラ整備に対する予算動向が懸念。時代の転換期でもあり、北陸地方のインフラ整備、社会の発展のため、協会が一丸となって適切な運営に努めていきたい」と表明されました。



吉野新支部長 挨拶

令和5年度事業計画では、会員の技術力向上のための調査研究や講習会の開催、DXの推進など13事業に対して各部会が活動する報告がなされました。各部会の主な活動は以下の通り。

- ・ 対外活動部会
発注機関との意見交換に関する事項
- ・ 総務部会
会員各社の経営基盤に関する事項
倫理、コンプライアンス等に関する事項
- ・ 技術部会
技術力向上に関する調査研究、講習会、社会貢献活動等に関する事項

・広報部会

広報活動、社会貢献活動、広報誌等に関する事項

・災害対策部会

災害対策活動、支援、訓練等に関する事項

災害対策活動支援の検討、調整に関する事項



定時総会の様子

なお、役員改選に伴う新体制は以下の通り。

支 部 長	吉野 清文 (新)	開発技建 (株)
副 支 部 長	大平 豊	エヌシーイー (株)
副 支 部 長	渡辺 正三	大日本コンサルタント (株)
副 支 部 長	新家 久司	(株) 国土開発センター
運営委員長	渡邊 雅樹	開発技建 (株)
運 営 委 員	黒木 康生	(株) 日本海コンサルタント
運 営 委 員	瀬川 光太郎	(株) 建成コンサルタント
運 営 委 員	笹谷 輝彦	(株) 国土開発センター
運 営 委 員	大浜 正人 (新)	(株) 建設技術研究所
運 営 委 員	小見 直樹 (新)	エヌシーイー (株)
運 営 委 員	岩澤 弘和 (新)	(株) 構造技研新潟
支 部 監 事	佐々木 大介	(株) ナルサワコンサルタント
支 部 監 事	高野 一博 (新)	大原技術 (株)

3. 講演会

総会終了後は、徳山日出男様（一般財団法人国土技術研究センター 理事長）を講師としてお招きし、「社会課題の解決に貢献するこれからのインフラ整備」と題した講演会を開催いたしました。講師略歴ならびに講演内容は以下の通り。



講師 徳山 日出男 様
(一財) 国土技術研究センター
理事長

○講師略歴

昭和54年 東京大学工学部土木工学科卒業。建設省入省
平成11年 建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所長
平成20年 国土交通省道路局企画課長
平成23年 国土交通省東北地方整備局長
平成25年 国土交通省道路局長
平成26年 国土交通省技監
平成27年 国土交通省事務次官
平成28年 国土交通省退官
現職 (一財) 国土技術研究センター 理事長

○演題

「社会課題の解決に貢献するこれからのインフラ整備」

①2023年ーインフラ整備が問われる年

- ・「国土強靱化基本計画」の改定
- ・「国土形成計画」の策定 (概ね10年間の長期計画)
- ・各ブロック圏の「広域地方計画」の策定

②東北の復興事業から得られるヒント

- ・復興事業により得られた成果
 - ✓国土強靱化の進展
 - ✓地域の課題解決する効果 (過疎、地域経済)
- ・交通流動の活性化・整序化、リダンダンシー確保
- ・地方の高規格道路の再評価
- ・河川空間と一体となったまちづくり
- ・国営追悼・祈念施設の整備～震災伝承のために～

③これからのインフラ整備政策

- ・脱炭素施策の主流化
- ・道路計画論の再構築
 - ✓高規格ネットワークの再評価
 - ✓道路の哲学の変化
 - ✓新しい課題の解決・新しい技術の活用
- ・国土強靱化一人の意識のレベルの防災

④国土技術研究センター (JICE) のミッション

本講演では、震災復興にご尽力されたご経験等を踏まえ、今後のインフラ整備のあり方、政策論、社会課題等の解決からインフラ計画を発想する必要性など貴重な講演をいただきました。

以上、令和5年度（第41回）北陸支部定時総会の概要を報告いたします。

なお、総会にて承認された各事業計画の実施に際しては、支部会員の皆様よりご支援、ご協力を賜り、円滑に実施してまいります。

令和4年度 「BIM／CIM官民合同講習会」報告

〈技術部会 統括技術委員会〉

1. はじめに

国土交通省では、令和5年度までに小規模を除く全ての公共工事でのBIM/CIM原則適用の方針を公表している。建設コンサルタントにおいては、年々BIM/CIM活用業務が増えており、今後更なる3次元モデル活用技術の向上と工事・維持管理への展開が課題となる。

このような動向を受け、(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部では、北陸 ICT 戦略研究会の一員として、平成 30 年度から BIM/CIM 講習会を開催しており、令和 4 年度は、国土交通省の BIM/CIM 等に関する取組み最新動向やこれまでに積み上げた事例を受発注社間で共有することを目的に官民合同の講習会をライブ配信及びオンデマンド配信により開催した。

2. 講習会の概要

(1)開催方法：

ライブ配信(zoom、Youtubeによる配信)

録画配信(建設コンサルタンツ協会北陸支部ホームページ(<http://hr-icca.jp/>)から録画配信)

(2)開催日と配信期間：

①ライブ配信(開催日)：令和5年3月6日(月)

②録画配信：令和5年3月23日(木)～6月30日(金)

(3)申込者数：ライブ配信：120名

録画配信：85名(令和5年4月21日時点)

(4)配信プログラム

①国土交通省のBIM/CIM等に関する取組み最新動向
(約60分)

②BIM/CIM設計活用事例(約60分)

③情報共有システム（ASP）の機能・事例等紹介
(約30分)

3. 講習会の内容

①国土交通省のBIM/CIM等に関する取組み最新動向

はじめに BIM/CIM の概要について説明、その後、令和 5 年度からの BIM/CIM 原則適用の内容の説明があった。

BIM/CIMの活用は業務・工事ごとに発注者が活用目的を明確にし、受注者が3次元モデルを作成・活用する。活用目的の設定にあたっては業務・工事の特性に応じて義務項目、推奨項目から発注者が選択することとなっており、この「義務項目」や「推奨項目」についての具体的な事例の紹介があった。

【BIM/CIMの義務項目の例】

【義務項目】出来あがり全体イメージの確認



「活用」の概要：出来あがりの完成形状を3次元モデルで視覚化することで、関係者で全体イメージの共有を図る。
 「活用例」：住民説明・関係者協議等での活用、書類検討での活用

【事例2】橋梁の形式比較検討および合同現地踏査への活用 【橋梁】

- 高度橋式構造にあたり、3次元モデルを活用し、各断面と上部工・下部工形式の比較検討および周辺の環境を含めた景観性の確認を行った。
- また、高架下にて維持管理空間が確保できるよう、計画経路順の見直しを行った。

●上部工形式



図1-10 上部工形式比較①



図1-11 橋脚形式の検討

●維持管理空間の確保



図1-12 維持管理空間の確保①



図1-13 維持管理空間の確保②



図1-14 維持管理空間の確保③



●下部工形式



図1-15 下部工形式比較①



図1-16 下部工形式比較②（門式構造）

編纂者	国土交通省 国土政策局 国土利用課
監修者	国土交通省 国土政策局 国土利用課
制作費	制作費は別途支払うものとす
主催	国土交通省
協力機関	国土交通省 国土政策局 国土利用課、国土利用研究所、国土利用センター
発行年次	2015

また、DS(Data-Sharing)の実施について電子納品保管管理システムの利用、DX データセンターの役割と機能、概要、その他についての紹介があった。併せて、最近の取り組みとして業務における ASP の活用やオンライン電子納品の拡大、普及・拡大への取り組みに関する紹介があった。

【DSの実施について】

DS (Data-Sharing)の実施(発注者によるデータ共有)

- ▶ 業務、工事の契約機連やかに、発注者が受注者に設計図書を作成の基となった情報を説明
- ▶ 受注者が希望する参考資料と発注者は速やかに貸与（電子納品保管管理システムの利用）



【記載例】〇〇工事の設計図書等の基となった参考資料

対象	説明内容
設計図	R10〇〇詳細設計業務とR2〇〇修正設計業務を基に作成しています。「R10〇〇詳細設計業務」を基本としていますが、その変更内容の修正設計2を基に設計業務に取組んでいます。
中心線測量	H30〇〇測量業務の成果を引用して作成しています。
法線測量	H30〇〇測量業務の成果を引用して作成しています。
幅員測量	R10〇〇測量業務の成果を引用して作成しています。
地質・土質調査	H20〇〇地質調査業務の成果を引用して作成とH30×〇地質調査業務の地下水調査の成果を引用しています。
道路中心線	H20〇〇道路計画設計業務において検討したものを参照しています。
用地幅員計画	H20〇〇道路計画設計業務において検討したものを引用しています。
防砂施設	R20〇〇河川計画設計業務において検討したものを引用しています。

- ▶ 共通仕様書等による成果物の一覧を基に、過去の成果を確認し、**直前の仕様を確認する。**
- ▶ 業務成果が古い場合、修正（変更、追加）が多数行われている事業の場合、管内設計業務等で部分的に修正をしている場合は、**仮設計書、自らの所管等に留意して説明する。**

（参考）電子納品保管管理システムの利用（R4.11.6現在適用開始例）



受注者が必要な業務成果をダウンロードすることを発注者が許可

【DXデータセンターの概要】 ② BIM/CIM 設計活



【普及・拡大に向けた北陸地方整備局の取組み例】



用事例

ここでは、発注者の活用事例として信濃川河川事務所、富山河川国道事務所から、受注者側の活用事例として開発技建株式会社、株式会社廣瀬より事例紹介があった。

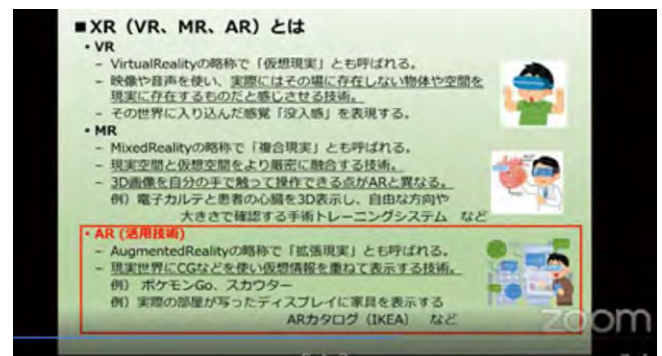
信濃川河川事務所からは大河津分水路事業における関連道路付け替えに関する地元・自治体との協議等での活用、富山河川国道事務所からは豊田新屋立体事業等での広報動画の作成やARの活用によるイメージの共有化に関する事例紹介があった。

【発注者の事例】：豊田新屋立体事業での広報例



開発技建株式会社からは、携帯電話を用い、現地の3次元データを取得するARシステム(Trimble SiteVision)の活用事例(構造物との取り合い、計画のイメージ共有等)の紹介があった。

【受注者(設計者)の事例】ARの活用例



株式会社廣瀬からは大河津分水路改修工事等におけるICT施工から得られるデジタルデータを用いた出来高確認やARシステム等の紹介があった。

【受注者(施工者)のARシステムによる段階確認例】



③情報共有システム(ASP)の機能・事例等紹介

情報共有システムは受発注者間の情報交換をインターネットを利用し、業務の効率化を実現するシステムであり、専用のウェブサイトにてIDとパスワードでログインし、書類の電子決済やファイルの管理、掲示板での協議などを行うことができる。

国土交通省の情報共有システムに対応したBIM/CIMの共有システムを運営する代表3社によりシステムの機能・事例等の紹介が行われた。

4. おわりに

本講習会開催にあたり、北陸地方整備局企画部技術管理課をはじめ、北陸ICT戦略研究会の皆様からはご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

また、若手ワーキンググループの皆様には、年度末のご多忙な時期にもかかわらずご協力を賜り心より感謝申し上げます。

令和5年度 河川研修会 「農地と砂防分野から考える流域治水」

〈技術部会 河川・砂防委員会〉

1. はじめに

令和3年11月に「流域治水関連法」が施行され北陸の各一級水系では流域治水プロジェクトが策定された。昨年8月の豪雨被災地域でも、補助河川を含めて様々な事業メニューが計画されており、「田んぼダム」や「砂防事業」等も予定されている。

我々土木系河川技術者は、この「田んぼダム」について触れる機会が少ない。また、昨今の豪雨出水をみれば、土砂・流木災害は切り離すことのできない事象であることから、今回の河川研修会では「田んぼダム」、「砂防」分野でご活躍の新潟大学農学部 吉川教授と権田教授から最新の知見をご講演頂くこととした。この研修が、会員各位の技術向上の一助となれば幸甚である。

2. 研修方法

日時：令和5年4月12日(水)14:15～16:45
会場：新潟大学駅南キャンパス ときめいと
参加人数：65名（対面：17名、Web：48名）

3. 研修内容

(1). 田んぼダムの整備と期待される効果

－持続的な取組みを支える技術－〔吉川夏樹 教授〕

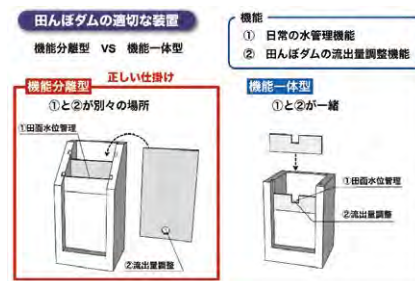
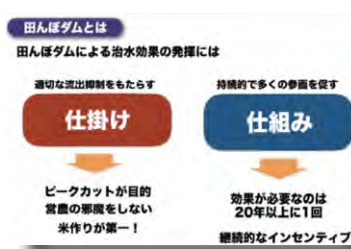
流域治水の取組みの一つとして注目される田んぼダムについて、洪水被害軽減効果や推進に向けた課題、継続実施を実現する新潟県見附市の取組み事例等についてご講演いただいた。



田んぼダムは、水田落水口の断面積を縮小させることで、豪雨時に水田からのピーク流出量を抑制し、洪水被害を軽減するものであり、具体的には新潟気象台の30年確率降雨で約70%のピークカットが期待できるとのことである。河川改修等の治水事業と比べて速効性が高く、低コストであることから、流域治水の取組みの一つとして期待される。

田んぼダムの推進は、適切な流出抑制をもたらす「仕掛け」と、持続的で多くの参画を促す「仕組み」が鍵となる。

「仕掛け」は、営農に影響を与えない範囲の取組みとして、日常の水管理を阻害しない適切な装置（田面水位管理機能と流出



量調整機能の機能分離型）を採用する必要がある。他方「仕組み」は、流域全体に占める実施率が低い場合に十分な水害抑制効果が得られないため、農家にとって「取り組む方が得」と思えるインセンティブ形成の仕組みを整備することが重要とのこと。

また、田んぼダムは水稻生産にプラスの効果がなく、農家にとってメリットがないことや、上流での取組みが下流での洪水被害を軽減させるものであることから、取組みの負担者と受益者が必ずしも一致しないということが、課題として挙げられた。

田んぼダムの具体的な取組み事例として、田んぼダム最先端地区である新潟県見附市の事例を紹介いただいた。見附市では7.13水害の経験から田んぼダムを市が推進し、1200haで田んぼダムが実施された。実施から12年経過した2021年時点の実施率は96%と高い値を維持している。これは、申請書・報告書作成の支援による農家の負担軽減のほか、多面的機能支払制度を活用した畦畔管理の支援等、田んぼダムを営農に役立てる仕組みづくりの成果であるとのこと。見附市の事例のように、田んぼダムは、水田に洪水緩和機能という付加価値を与えることにより、持続的な農地資源管理に寄与する取組みとしても期待される。

(2). 治水・砂防と流域治水

－変わりゆく土砂災害とその対策－〔権田豊 教授〕

流域に関わるあらゆる関係者が共同して水災害対策を行う「流域治水」の考え方が広まっている中で、治山・砂防分野に期待されている流木対策や土砂・洪水氾濫対策について、日本の荒廃山地の歴史の変遷を交えながらご講演いただいた。



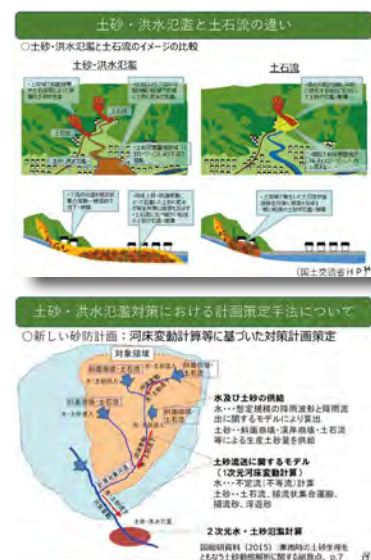
第2次世界大戦後、木材の乱伐等により山は荒廃し、水源涵養機能が良好に発揮できていなかったため、大雨が降るたびに、土砂・洪水による被害が発生していた。こうした中で、土砂・洪水対策として、砂防施設の設置、堤防の強化や河川改修のほか、植林により土砂生産を抑制する取り組みが行われてきた。

近年、短時間で大量の雨が降る降雨イベントが増加している。森林には、土壌の保全や雨の貯留によるピーク流量の抑制機能に加え、木根による土砂崩壊防止機能等がある。しかし、こうした森林の土砂災害防止機能にも限界があり、伊豆大島において平成25年に発生した台風第26号では、約800mmの降雨により深層崩壊が発生し大規模な土砂氾濫が引き起こされた。このような大規模な斜面崩壊により、土砂に加え山の地表に繁茂している樹木の流出による被害が拡大した事例が各地で報告されている。特に顕著なのが、土石流とともに流下してきた大量の流木が川を横断する橋梁等の構造物で閉塞することにより、周辺に氾濫が拡大する事例である。流木による災害が発生する社会的背景としては、長年行われてきている林業活動の衰退もあるが、昔に比べ雨そのものの量が多くなったことで、森林の樹木では抑えきれない深さの崩壊が生じてきている等も一因であると考えられているとのこと。

また、土砂・洪水氾濫は、中小出水のたびに恒常的に山地から土砂が流出し、平地の河床で堆積していた過去のものとは異なり、近年は、未曾有の豪雨の発生頻度増加により斜面が同時多発的に崩壊し、一度に大量の土砂が流出する危険性が高まってきている。このため、今後は一度の降雨イベントで大量の土砂が河床に堆積し、大規模な災害が発生する等が懸念される。

短期間に大量の土砂が流出する近年の災害に対応するためには、従来の静的な砂防計画とは異なる計画の策定が必要となる。河床変動の予測モデルを用いて砂

防施設の配置を検討する動的な数値シミュレーションや、潜在的に土砂・洪水氾濫が発生するおそれのある流域を抽出する1次スクリーニング手法を組み合わせた官民一体となった新たな計画策定を行っていく必要がある。



4. おわりに

今回、新年度早々の開催にもかかわらず、65名の方からお申し込み頂きました。対面とweb配信の並行開催でしたが、web配信で音声トラブルがあった旨、報告されております。聴講者の皆様はこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

総合討論では、会場参加者より、「洪水時に田んぼダムで貯留した水位が元の水位に戻るまでにはどの程度の時間を要するか」や「流域治水の各分野に横串を指すリーダーシップをどのように考えるか」などの質問が挙げられ、講師の方々よりご丁寧に回答いただきました。



総合討論の様子

右から新潟大学農学部 吉川教授、権田教授、河川砂防委員会 阿左美委員、須田委員長、伊藤委員

研修の開催にあたり、ご多忙にもかかわらず講師をお引き受け頂いた新潟大学農学部 吉川教授、権田教授に心より感謝申し上げます。

以上

令和4年度 支部活動報告

1.支部会員状況

令和4年 4月1日現在の支部会員数 正会員 61、準会員 2 計 63 社
 令和4年 10月1日現在の支部会員数 正会員 62、準会員 2 計 64 社

2.支部活動

(1) 北陸支部総会

第40回北陸支部定時総会〔新潟市内、集合・YouTubeライブ配信〕 4月21日
 支部講演会なし

(2) 北陸支部監査および役員会

北陸支部監査〔新潟市内〕 4月 6日
 第1回役員会〔web会議〕 4月 7日
 第2回役員会〔web会議〕 6月 9日
 第3回役員会〔web会議〕 9月 8日
 第4回役員会〔web会議〕 11月10日
 第5回役員会〔web会議〕 1月19日
 第6回役員会〔web会議〕 3月 9日

(3) 部会委員会会議

創立40周年記念事業 第7回実行委員会会議〔新潟市内、web利用〕 5月17日
 新潟地域委員会会議〔新潟市内〕 5月17日
 新潟地域委員会会議〔新潟市内〕 7月14日
 新潟地域委員会会議〔新潟市内、web利用〕 12月 6日
 総務委員会会議〔新潟市内、web利用〕 5月20日
 総務委員会会議〔新潟市内、web利用〕 12月 7日
 倫理法令委員会会議〔web会議〕 12月20日
 技術部会委員長会議〔新潟市内、web利用〕 5月20日
 技術部会委員長会議〔新潟市内〕 12月 8日
 橋梁委員会会議〔web会議〕 5月12日
 広報部会会議〔新潟市内、web利用〕 5月17日
 広報委員会会議〔新潟市内〕 12月 8日
 会誌編集委員会会議〔新潟市内〕 7月 4日
 会誌編集委員会会議〔新潟市内〕 2月28日
 災害対策委員会会議〔新潟市内、web利用〕 6月17日
 災害対策委員会会議〔新潟市内、web利用〕 8月 3日
 災害対策委員会会議〔新潟市内〕 12月 8日
 災害対策委員会会議〔新潟市内〕 3月 3日
 新型コロナウイルス感染症に関する危機管理対策北陸本部 令和2年4月24日設置～令和5年5月17日廃止

(4) 対外活動

北陸ブロック意見交換会〔新潟市内〕 10月 5日
 北陸地方整備局との意見交換会〔北陸地整、会議システム使用〕 11月24日
 新潟県土木部との意見交換会〔新潟市内〕 10月20日
 新潟市との意見交換会〔新潟市内〕 11月15日
 富山県土木部との意見交換会〔富山市内〕 2月22日
 本部・支部意見交換会〔新潟市内〕 3月13日

(5) 講習会・イベント・社会貢献活動

北陸支部40周年記念誌発刊 5月下旬
 支部会員名簿の発刊 6月上旬
 支部会誌「雪の音」の発行 6月15日、10月15日、2月15日
 富山湾海岸特別清掃〔高岡市松太枝浜〕 7月 3日
 支部防災演習及び本部防災演習〔新潟市内・富山市内・金沢市内、web利用〕 9月 1日

第1回北陸インフラ整備構想提案 検討WG〔web会議〕	7月21日
第2回北陸インフラ整備構想提案 検討WG〔web会議〕	9月 5日
北陸建設界の担い手確保・育成協議会石川県部会	10月26日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会〔新潟市内〕	12月15日
REIM長岡高専 社会基盤メンテナンス教育推進協議会設立準備会〔長岡市内〕	11月18日
主催 道路・トンネル技術講習会〔新潟市内、集合・ライブ配信〕 参加:会場20名、web30名	9月28日
主催 まちづくり講演会〔金沢市内、ライブ配信〕 参加57名	9月30日
主催 環境セミナー「SDGs未来都市 富山市における海洋プラスチック問題の取組」 録画配信 参加50名	9月30日～10月14日
主催 北陸支部業務・研究発表会〔新潟市内、ライブ配信〕 参加106名	11月 1日
主催 若手WG 若手技術者交流会「皆でフックアップ！北陸建コン若手エンジニア2022」〔新潟市内、集合・ライブ配信〕 参加：集合23名、web14名	11月 9日
主催 協会本部多田顧問講演会〔新潟市内、集合・ライブ配信〕 参加：集合40名、web18名	12月 8日
主催 倫理・法令に関する講習会 録画配信 参加106名	2月20日～28日
共催 BIM・CIM講習会 録画再配信（主催北陸ICT戦略研究会） 参加123名	5月25日～8月31日
共催 北陸支部社会貢献活動「白山外来植物除去作業in市ノ瀬」〔白山国立公園〕	6月26日
共催 土研 新技術ショーケース2022 in新潟〔新潟市内〕	10月26日
共催 水文観測講習会〔富山会場・新潟会場〕	11月 8日・11日
共催 橋梁技術講演会（ライブ配信）	11月22日
共催 Made in 新潟（土木・建築）展示・発表会（主催新潟県）	11月22日
共催 Made in 新潟 新技術[土木・建築]web発表会（主催新潟県）	2月27日
共催 BIM/CIM官民合同講習会（主催北陸ICT 戦略研究会）〔新潟市内、ライブ配信〕 参加：Zoomライブ68名、YouTubeライブ52名	3月 6日
共催 BIM/CIM官民合同講習会 録画配信（主催北陸ICT戦略研究会）	3月23日～6月30日
共催 第26回社会資本整備セミナー〔長野市内〕	7月15日
共催 第26回社会資本整備セミナー〔金沢市内〕	7月21日
共催 第26回社会資本整備セミナー〔富山市内〕	7月22日
共催 第26回社会資本整備セミナー〔新潟市内〕	7月27日
共催 第27回社会資本整備セミナー〔長野市内〕	1月24日
共催 第27回社会資本整備セミナー〔新潟市内〕	2月 9日
共催 第27回社会資本整備セミナー〔富山市内〕	2月27日
共催 第27回社会資本整備セミナー〔金沢市内〕	2月28日
CIMハンズオン講習会（主催本部）	8月18日・19日
マネジメントセミナー（主催本部、集合・ライブ配信）	9月28日
GIS講習会（主催本部、ライブ配信）	10月11日
品質セミナー（主催本部、録画配信）	10月21日～30日
経営分析説明会（主催本部財務委員会）〔新潟市内〕	10月27日
ICTセミナー2022（主催本部、ライブ配信）	11月30日
後援 コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム2022〔新潟市内・金沢市内〕	7月 6日・8日
後援 第4回北陸インフラメンテナンスフォーラム〔新潟市内〕	8月 9日
後援 第32回土木フェスティバル〔長岡市内〕	10月 9日
後援 第37回雪シンポジウムin南魚沼	11月14日
後援 第20回応用生態工学会 北信越現地ワークショップin新潟	10月14日・15日
後援 応用生態工学会 富山地域研究会 勉強会	10月13日
後援 富山県景観づくりフォーラム2022	11月14日・15日
後援 とやまジオテクセミナー（地盤工学会）	9月30日
後援 第17回地盤調査法講習会（地盤工学会）	9月30日
後援 第85回土質工学最新情報コロキウム（地盤工学会）	10月28日
後援 朝日温海道路11号トンネル工事説明会（地盤工学会）	11月29日

(6) 講師派遣

第1回けんせつセミナー2022 初任者技術研修（道路概論）web研修	5月19日
第4回けんせつセミナー2022 道路施設の補修・補強技術（洞門、トンネル）web研修	6月22日

第 9 回けんせつセミナー 2022 道路設計 web 研修	8月24日・25日
第 10 回けんせつセミナー 2022 橋梁Ⅰ（下部工の設計・施工編）web 研修	9月 8日
第 11 回けんせつセミナー 2022 橋梁Ⅱ（上部工の設計・施工編）web 研修	9月14日
第 15 回けんせつセミナー 2022 コンクリート構造物の維持管理 web 研修	11月 9日
インフラメンテナンス講習会 道路附属物等の点検概要〔北陸技術事務所〕	9月15日
インフラメンテナンス講習会 コンクリート橋の維持管理〔北陸技術事務所〕	9月29日
インフラメンテナンス講習会 橋梁点検・診断の留意点〔北陸技術事務所〕	10月 6日
インフラメンテナンス講習会 橋梁の補修・補強、点検支援技術〔北陸技術事務所〕	10月13日
インフラメンテナンス講習会 トンネルの維持管理と点検概論、実習〔北陸技術事務所〕	11月10日
新潟県土木部業務研修 フレ研 工事監督者の基礎知識（2年目）web 研修	9月16日
新潟県土木部職員研修「橋梁Ⅲ（行政編）」web 研修	9月26日
富山県土木部技術職員研修（道路）〔富山市内〕	10月 3日
富山県土木部技術職員研修（土木専門技術・建設行政）〔富山市内〕	2月 7日
北陸地整 道路構造物管理実務者（トンネル）	10月 5日・6日
第 8 回わかりやすい PC 橋の施工技術研究会〔新潟市内〕	11月17日
第 8 回わかりやすい PC 橋の施工技術研究会〔富山市内〕	11月24日

(7) 学校への広報活動

〔高専・大学〕各県毎に掲載

新潟大学農学部	4月25日
新潟大学工学部	5月24日
新潟大学キャリアセンター	5月26日
新潟大学理学部地質科学科	6月13日
業界研究セミナーライブ配信（主催新潟大学）	10月19日・20日
新潟工科大学	6月 9日
長岡技術科学大学	6月 6日
長岡工業高等専門学校	7月 4日
富山大学	4月13日
富山県立大学	5月17日
金沢大学	4月19日
金沢工業大学	6月 2日
石川県立大学	6月10日
石川工業高等専門学校	6月28日
官民連携による建設業界説明会ライブ配信 新潟県内5大学・高専 （主催 北陸地整・新潟県・新潟県建設業協会・建コン協北陸支部）	2月 2日

〔中学校・高校〕新潟県内の地域毎に掲載

新発田市立川東中学校（2回）	7月 5日・10月21日	新潟県立塩沢商工高等学校	9月 7日
新潟県立新発田農業高等学校	9月27日	十日町市立川西中学校	10月28日
新発田市立佐々木中学校	7月 8日	十日町市立下条中学校	6月 2日
阿賀野市立安田中学校	6月17日	津南市立津南中学校	6月 7日
新潟市立西川中学校	7月13日	十日町市立十日町中学校	6月10日
田上町立田上中学校	12月 6日	十日町市立水沢中学校	10月12日
三条市立大崎学園	6月24日	十日町市立南中学校	6月17日
小千谷市立小千谷中学校	7月 1日	十日町市立松代中学校	7月 5日
長岡市立東中学校（2回）	8月23日・24日	柏崎市立松浜中学校	10月28日
長岡市立与板中学校	5月26日	上越市立八千浦中学校	10月 4日
小千谷市立片貝中学校	1月27日	上越市立板倉中学校	7月19日
長岡市立秋葉中学校	6月27日	上越市立浦川原中学校	7月 5日
長岡市立北中学校	6月17日	上越市立吉川中学校	6月 7日
長岡市立江陽中学校	6月10日	上越市立安塚中学校	7月 8日
見附市立西中学校	3月 9日	上越市立中郷中学校	10月27日
魚沼市立広神中学校	10月14日	妙高市立妙高中学校	5月26日
魚沼市立小出中学校	10月26日	糸魚川市立青海中学校	6月 7日
魚沼市立湯之谷中学校	7月 6日	佐渡市立赤泊中学校	7月 4日
魚沼市立魚沼北中学校	7月12日		

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部 会 員 名 簿

令和5年6月1日現在

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
朝日航洋(株)	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計(株)		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測(株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
(株)アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ(株)		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ(株)	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル8F	025-241-0283 025-243-5650
(株)エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー(株)		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
応用地質(株)	北信越事務所	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
大原技術(株)		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
(株)オリエンタルコンサルタンツ	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建(株)		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
(株)開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質(株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
基礎地盤コンサルタンツ(株)	北陸支店	950-0925 新潟市中央区弁天橋通1-2-34 尾山ビル	025-257-1888 025-257-1880

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
北建コンサル(株)		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
(株)キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
(株)協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
(株)協和コンサルタンツ	新潟営業所	940-0061 長岡市城内町3-8-7 蒼柴ビル801	025-889-8302 025-889-8304
(株)クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
(株)クレアリア	北陸支店	950-0973 新潟市中央区上近江2-9-19 レジデンス近江101	025-288-6893 025-288-6894
(株)建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0915 新潟市中央区鑑西1-7-5 エスポワール新潟1F	025-282-7385 025-282-7387
建設技研コンサルタンツ(株)		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 メットライフ新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
(株)構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
(株)国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発(株)		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
(株)新日本コンサルタント		930-0857 富山市奥田新町1-23	076-464-6520 076-464-6671
相互技術(株)		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本コンサルタント(株)	北陸支社	930-0029 富山市本町3-21 損保ジャパン富山ビル	076-415-7800 076-415-7795
(株)ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山4-1-24	025-234-2110 025-234-2111
館下コンサルタンツ(株)		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
(株)長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776
(株)ティーネットジャパン	北陸支社	951-8061 新潟市中央区西堀通6番町866 NEXT21ビル	025-226-4330 025-226-3033
(株)東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
(株)東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曽根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
(株)東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁212-1	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント(株)		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
(株)ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区綱川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
(株)日本インシーク	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営(株)	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21 4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3 6F	025-247-1341 025-246-1005
(株)パスコ	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 メットライフ新潟テレコムビル5F	025-243-0051 025-241-8654
(株)プラネット・コンサルタント		920-0017 金沢市諸江町下丁372	076-255-0630 076-255-0672
北電技術コンサルタント(株)		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント(株)		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント(株)	北陸事務所	951-8067 新潟市中央区本町通7番町1153 新潟本町通ビル	025-224-1285 025-224-1286
(株)村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
(株)村尾地研		939-8262 富山市塚原150	076-429-2511 076-429-2603
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社) 北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財) 新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

役員・委員会名簿

令和5年6月1日現在

北 陸 支 部 役 員			
支部理事	支部長	吉 野 清 文	開発技建(株)
〃	副支部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	副支部長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	副支部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	運営委員長	渡 邊 雅 樹	開発技建(株)
〃	運営委員	黒 木 康 生	(株)日本海コンサルタント
〃	運営委員	瀬 川 光太郎	(株)建成コンサルタント
〃	運営委員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	運営委員	大 浜 正 人	(株)建設技術研究所
〃	運営委員	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
〃	運営委員	岩 澤 弘 和	(株)構造技研新潟
支部監事	支部監事	佐々木 大 介	(株)ナルサワコンサルタント
〃	支部監事	高 野 一 博	大原技術(株)

対 外 活 動 部 会			
	部会長	吉 野 清 文	開発技建(株)
	部会員	大 平 豊	エヌシーイー(株)
	部会員	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会幹事	坂 上 悟	開発技建(株)
	部会員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
	部会員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
	部会員	渡 部 長 務	エヌシーイー(株)
	部会員	山 田 幸 男	(株)建設技術研究所
新潟地域委員会	委員長	岩 澤 弘 和	(株)構造技研新潟
〃	委 員	田 邊 敏 夫	(株)クリエイイトセンター
〃	委 員	中 田 一 男	開発技建(株)
〃	委 員	坂 西 和 也	エヌシーイー(株)
〃	委 員	坂 井 徹	旭調査設計(株)
〃	委 員	外 川 忠 利	(株)キタック
富山地域委員会	委員長	柴 田 聡	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	竹 腰 直 治	北建コンサル(株)
〃	委 員	吉 田 勉	(株)上智
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	榮 知 之	北陸コンサルタント(株)
石川地域委員会	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	二 俣 秀	(株)国土開発センター

総務部会			
	部会長	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
総務委員会	委員長	清 原 宏 二	開発技建(株)
〃	委 員	熊 倉 孝 次	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	佐 藤 雄 一	(株)構造技研新潟
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	浦 正 光	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	浜 辺 良 彦	相互技術(株)
〃	委 員	今 野 健	エヌシーイー(株)
倫理・法令委員会	委員長	須 田 玲	エヌシーイー(株)
〃	委 員	飯 田 雅 之	開発技建(株)
〃	委 員	青 木 秀 典	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	新田川 貴 之	(株)国土開発センター
〃	委 員	河 原 健 二	(株)日本海コンサルタント

技術部会			
	部会長	神 田 和 久	開発技建(株)
統括技術委員会	委員長	藤 巻 智 之	開発技建(株)
〃	委 員	真 嶋 利 寿	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 塚 秀 行	(株)キタック
〃	委 員	杉 野 亨	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	池 潤 稔	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	武 沢 直 貴	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	加 藤 毅	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	高 橋 辰 夫	(株)開発技術コンサルタント
河川・砂防委員会	委員長	伊 藤 信 哉	開発技建(株)
〃	委 員	阿左美 敏 和	(株)建設技術研究所
〃	委 員	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
〃	委 員	藤 原 大 佑	五大開発(株)
〃	委 員	太 原 晶	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	浦 田 斉	エヌシーイー(株)
〃	委 員	波多野 勝 弘	相互技術(株)
〃	委 員	伊 藤 正 喜	(株)開発技術コンサルタント
道路委員会	委員長	木 村 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	須 佐 慎	開発技建(株)
〃	委 員	吉 田 要	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	相 田 守	(株)キタック
〃	委 員	木 下 裕 康	(株)国土開発センター
〃	委 員	美 作 知 弘	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	藤 本 勇 一	(株)東洋設計

橋梁委員会	委員長	脇 坂 哲 也	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 村 康 裕	開発技建(株)
〃	委 員	渡 邊 敦	エヌシーイー(株)
〃	委 員	門 口 健 吾	(株)キタック
〃	委 員	佐 藤 良 晴	(株)構造技研新潟
〃	委 員	浦 修 造	(株)国土開発センター
〃	委 員	鷹 西 輝	(株)東洋設計
〃	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	塚 嶋 雅 則	東京コンサルタンツ(株)
トンネル委員会	委員長	須 貝 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	松 尾 内 助	(株)キタック
〃	委 員	長谷川 哲 也	サンコーコンサルタント(株)
〃	委 員	辻 本 勝 彦	(株)国土開発センター
都市計画委員会	委員長	岩 渕 和 有	エヌシーイー(株)
〃	委 員	村 田 亨	開発技建(株)
〃	委 員	荘 司 洋 文	(株)キタック
〃	委 員	森 川 大 輔	(株)国土開発センター
〃	委 員	酒 井 信 次	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	眞 島 俊 光	(株)日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	竹 内 聡	開発技建(株)
〃	委 員	稲 葉 弘 之	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	若 尾 明 弘	エヌシーイー(株)
〃	委 員	竹 野 茂 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	上 田 拓 哉	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	辰 橋 浩 二	(株)国土開発センター
〃	委 員	廣 井 敏 樹	大原技術(株)
若手技術者ワーキンググループ	リーダー	中 野 達 也	(株)日本海コンサルタント
〃	サブリーダー	小 倉 匡 介	開発技建(株)
〃	委 員	濱 田 康 行	(株)国土開発センター
〃	委 員	庭 山 雄太郎	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	小 口 祐 樹	(株)キタック
〃	委 員	杉 田 友 樹	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	本 間 千 悠	(株)構造技研新潟
〃	委 員	佐久間 佑 多	相互技術(株)
〃	委 員	楡 井 将 真	エヌシーイー(株)

広 報 部 会			
	部会長	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
広報委員会	委員長	石 塚 英 洋	エヌシーイー(株)
〃	委 員	飯 田 互	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	新 保 和 広	相互技術(株)
〃	委 員	本 間 健太郎	(株)ナルサワコンサルタント
〃	委 員	高 澤 正 浩	(株)構造技研新潟
〃	委 員	加 藤 克 裕	(株)キタック
〃	委 員	泉 田 洋	八千代エンジニアリング(株)
〃	委 員	本 間 拓 海	(株)建設技術研究所
〃	委 員	坂 原 徹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	大 蔵 欣 司	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	島 由 治	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	新 家 哲 平	(株)国土開発センター
会誌編集委員会	委員長	高 橋 宏 明	開発技建(株)
〃	委 員	澤 田 伸 也	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	古 橋 伸 彦	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	太 田 博 昭	(株)国土開発センター
〃	委 員	山 田 嘉 貴	(株)クリエイイトセンター

災 害 対 策 部 会			
	部会長	吉 野 清 文	開発技建(株)
新潟現地対策本部	本部長	吉 野 清 文	開発技建(株)
〃	副本部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	技術総括指揮者	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	副責任者	田 崎 友 康	開発技建(株)
富山現地対策本部	本部長	吉 野 清 文	開発技建(株)
〃	副本部長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	技術総括指揮者	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	副責任者	青 木 秀 典	大日本コンサルタント(株)
石川現地対策本部	本部長	吉 野 清 文	開発技建(株)
〃	副本部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	技術総括指揮者	七郎丸 一 孝	(株)国土開発センター
〃	副責任者	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
災害対策委員会	委員長	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	委 員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	委 員	坂 上 悟	開発技建(株)
〃	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	増 山 繁 雄	北陸コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	七郎丸 一 孝	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	武 沢 直 貴	(株)日本海コンサルタント

事 務 局			
	事務局長	佐々木 清 一	

編集後記

【WORLD BASEBALL CLASSIC】、日本国民が沸きに沸いた2週間、栗山監督をはじめ日本代表の選手たちが持てる力を十二分に発揮し、見事《優勝》を勝ち取り、幕を閉じたのがつい昨日のように感じます。私の家族も一戦一戦、食い入るようにテレビにくぎ付けでした。決勝戦、日本は7人のピッチャーを総動員、最後は大谷Vストラウトと正にシナリオでもあるかのような筋書きでした。その後、各選手はアメリカメジャーリーグ、日本のプロ野球においてもひとときわ輝いた活躍を私たちに届け続けています。

今回のWBCもしく、近年、スポーツ界においてはVAR（ビデオアシスタントレフリー）の技術が積極的に採用され、審判のサポート技術の一環として活用され、きわどいジャッジ、見逃されたであろう判定のチェック機能を果たしている。VARにおいてはAI（人工知能）も駆使されておりその精度、技術は常に進化を遂げている。

確かに、戦っている選手にとっては、1つの判定が命運を分ける場面が往々にしてあります。見ている側も勝つか負けるかの瀬戸際で『えっ?』といった判定に遭遇することもあります。一昔前、スポーツの審判は絶大な権威の持ち主で、審判は絶対でした。が、一方で、審判も人間、時に誤りは起こるものです。日本人にとって今でも印象的に残っているのは、昨年のサッカーワールドカップでの【三苦の一ミリ】。ゴールライン際の判定はまさにVAR無しには生まれなかったことでしょう。

あくまでもVARは審判の補助的役割であり、重要な局面で最低限活用されるものです。仮に、試合そのものを全てにおいてVARを駆使することは可能でしょうが、審判不在のスポーツ、きっと人間味のないつまらないものとなるでしょう。

AIの技術は日々進化を続け、多岐分野に加速度的に普及を遂げています。私たちの生活をより便利な方向へと導いてくれますが、時に人間の思惑と相反する方向へ発展するリスクも大いに含んでいると感じます。

我々の業界においてもIT、AI技術は当たり前のように浸透し、様々な分野で活躍しています。それを良きものとしていく為、我々も【人間力】に磨きをかけていく必要があるのではと感じます。

太田博昭

発行／一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長／高橋宏明

委員／澤田伸也 古橋伸彦 太田博昭 山田嘉貴



発 行

一般社団法人 建設コンサルタント協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371
<https://hr-jcca.jp/>